

3.2.1.7 特別講義の実施「東水環境センター施設見学」

担当：森藤 知也

実施時期：令和6年1月24日(水)

場所：東水環境センター 東部スラッジセンター・六甲アイランド水リサイクルセンター

対象生徒：本校1,2年次参加希望者 計6名

講師：御輿 真吾 様 (神戸市建設局東水環境センター)



1.研究開発の経緯と目的

本校では、「神戸学」の探究活動や各系・コースの授業において、地域と協働した取り組みを行っている。また、「神戸学」の取り組みにおいては、SDGsに関連した内容も展開している。本事業では、六甲アイランド島内にある水のリサイクル施設を見学することで、身近な地域の施設で行われている取組について知見を広げるとともに、環境や水資源の有効活用について考えることで、身近な生活と環境問題を関連づけて考える機会とすることを目的としている。

2.仮説

本事業により、育むことができる力は以下の通りである。

	A:課題設定力	B:企画協働力	C:論理考察力	D:自己学習力	E:表現理解力	F:知識・技能
仮説				○		○

実際に施設見学を行うことで、身の回りの生活に関する事象やサービスについて、どのような仕組みで提供されているのかについて関心を持つことが想定されるため、自己学習力の向上が見込まれる。また、講師からの解説や施設見学内容を通じて、水資源の利用についての知識・技能においても、能力が向上すると考えられる。

3.研究内容・方法

講師から施設概要および東水環境センターでの仕事内容についての解説を聞いた後、東部スラッジセンター及び六甲アイランド水リサイクルセンターの施設見学を行った。

4.検証

育むべき6つの力についての5段階の評価を行った。平均値は以下の通りである。

	A:課題設定力	B:企画協働力	C:論理考察力	D:自己学習力	E:表現理解力	F:知識・技能
平均(事前)	3.8	3.5	3.2	3.1	2.9	2.8
平均(事後)	3.9	3.6	3.9	3.7	3.3	3.4

仮説通り、自己学習力の向上が見られた。施設見学では、実際に機械が稼働しており、日頃学校で使用している再生水の生成工程を見ることができたため、水のリサイクルについて、より身近に感じることができたのではないかと考える。また、知識・技能においても、施設見学中に講師の方からご説明いただいたことで、より深い知識の定着につながったと考える。日頃生活している地域での施設見学を行ったことで、生徒にとってもより身近に感じられたのではないかと考えている。